

北海道の家畜改良の現状

令和2年8月

北海道農政部生産振興局畜産振興課

目次

1 乳牛改良の現状

(1) 1頭当たりの生乳生産量（1乳期）の推移	1
(2) 1頭当たりの生乳生産量（1乳期×除籍産次）の推移	2
(3) 初産月齢の推移	3
(4) 分娩間隔の推移	4
(5) 除籍産次の推移	5

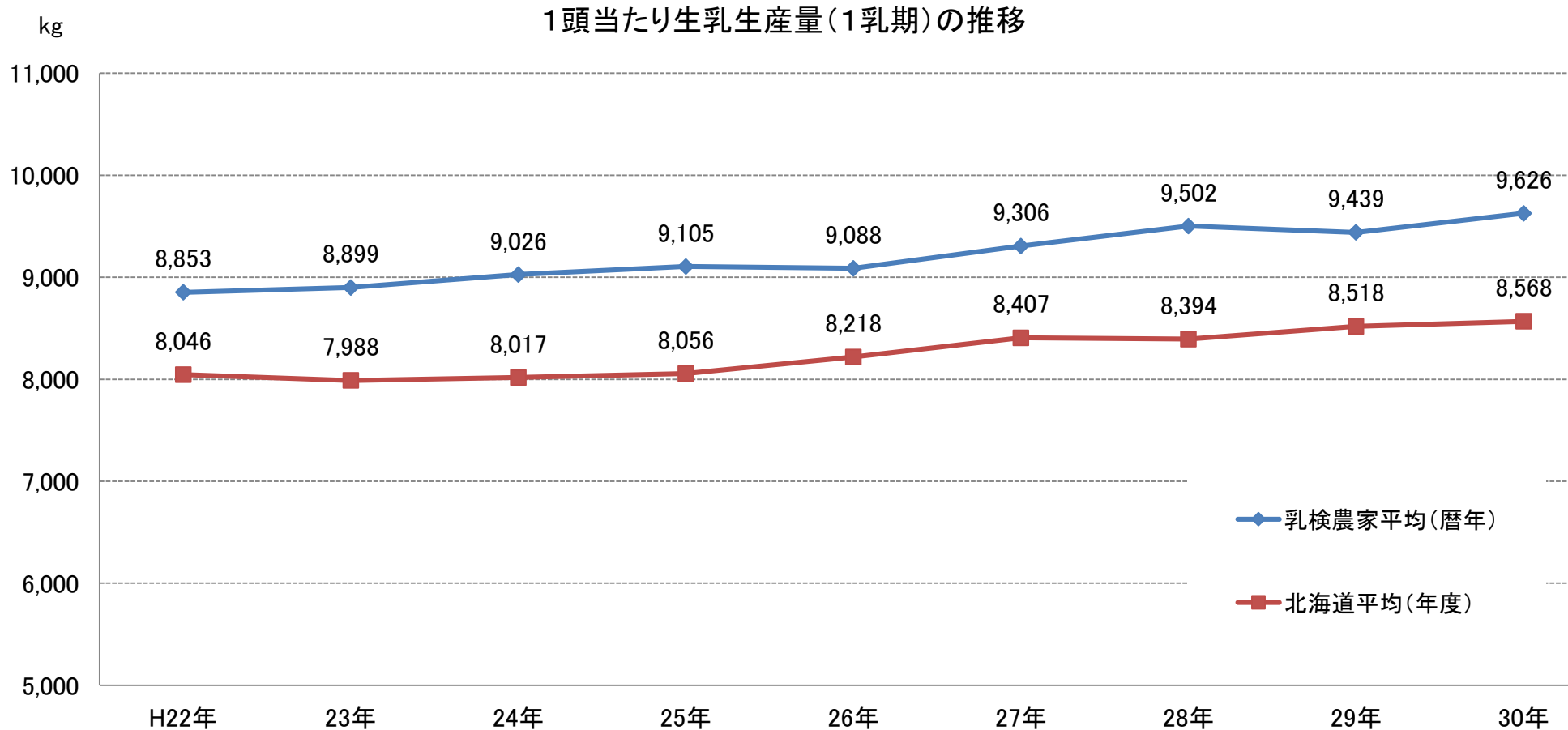
2 肉用牛改良の現状

(1) 黒毛和種に係る出荷月齢の推移	6
(2) 乳用種に係る出荷月齢の推移	7
(3) 交雑種に係る出荷月齢の推移	8
(4) 黒毛和種に係る初産月齢の推移	9
(5) 黒毛和種に係る分娩間隔の推移	10

1 乳牛改良の現状

(1) 1頭当たりの生乳生産量（1乳期）の推移

○ 1頭当たりの生乳生産量(1乳期)は、牛群検定加入農家では9,626kgと北海道平均(8,568kg)を上回って推移。

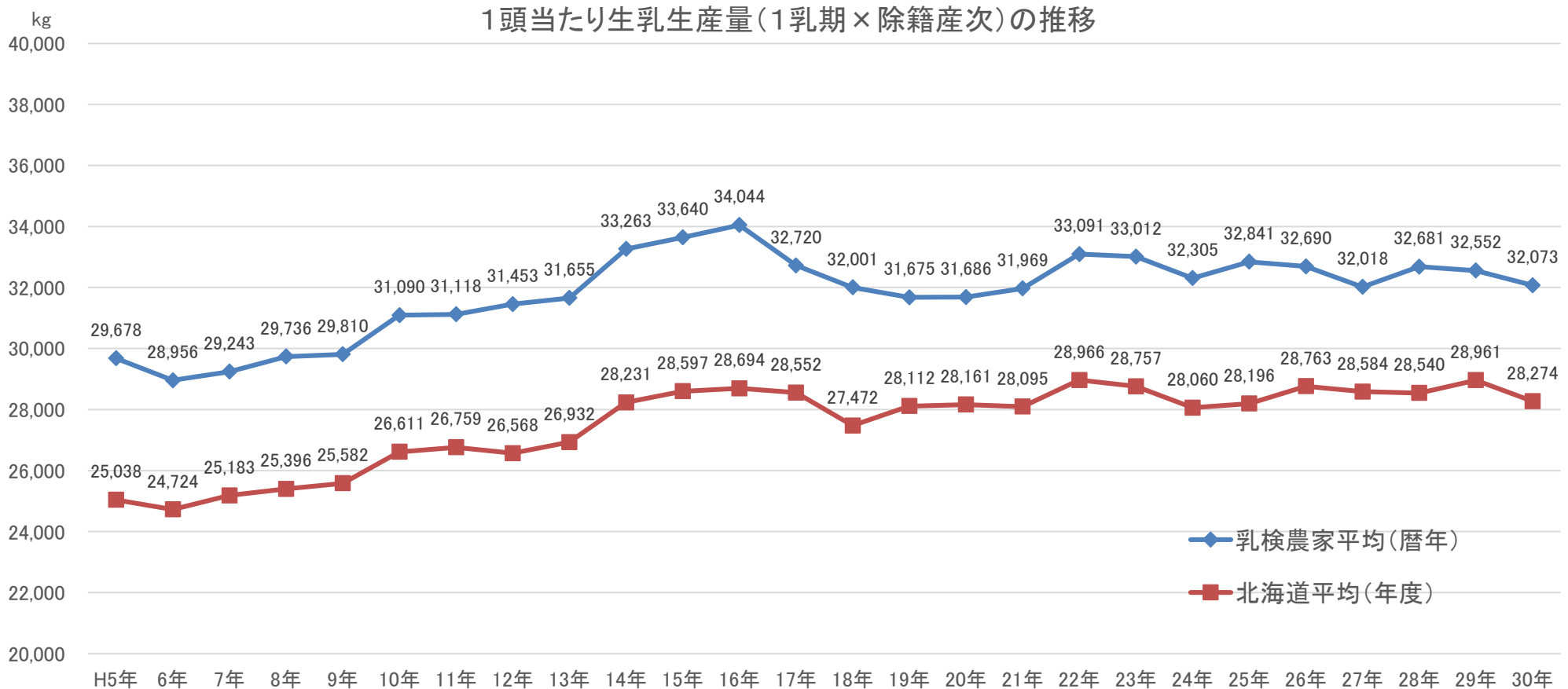


資料: 乳検農家平均乳量は(公社)北海道酪農検定検査協会年間検定成績、
北海道平均は農林水産省「畜産統計」・「牛乳乳製品統計」より推計

1 乳牛改良の現状

(2) 1頭当たりの生乳生産量（1乳期×除籍産次）の推移

○ 1頭当たり生乳生産量(1乳期×除籍産次)は、1乳期の乳量は、年々増加しているものの、平均除籍産次が短縮傾向であることから、横ばいとなっており、乳検農家では、平成16年の34,044kg、北海道平均では、22年の28,966kgがピーク。



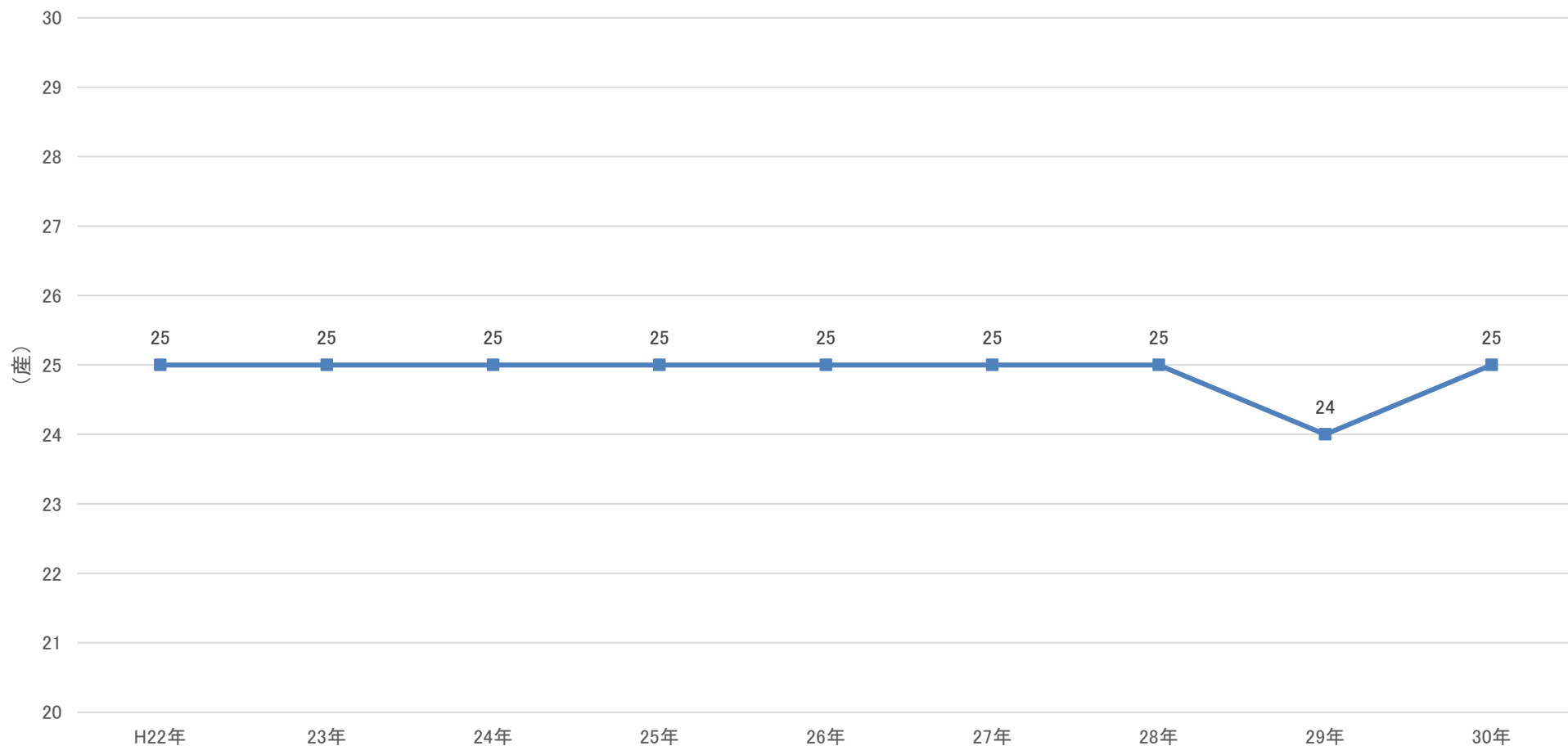
資料: 乳検農家平均乳量は(公社)北海道酪農検定検査協会年間検定成績、北海道平均は農林水産省「畜産統計」・「牛乳乳製品統計」より推計
平均除籍産次は北酪検調べ。

1 乳牛改良の現状

(3) 初産月齢の推移

○ 乳牛の平均初産月齢は、25か月齢で推移しており、24か月齢となったのは、平成29年のみ。

初産月齢の推移

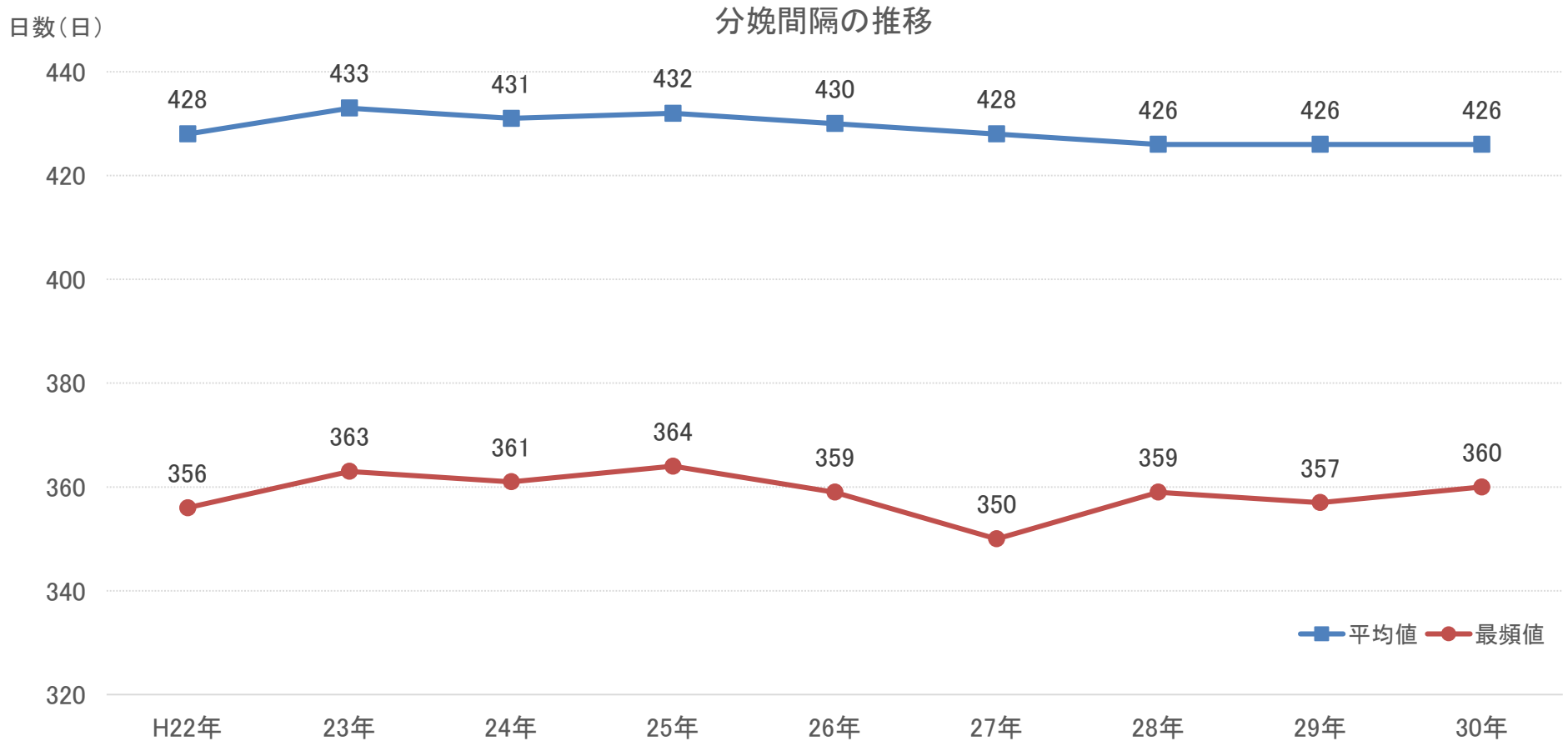


資料: 平均初産月齢は北酪検調べ。

1 乳牛改良の現状

(4) 分娩間隔の推移

○ 乳牛の分娩間隔の最頻値は360日前後で推移しており、適切な分娩サイクルになっている一方、長期不受胎牛も多くいることから、平均値はほぼ横ばいの426日程度で推移。

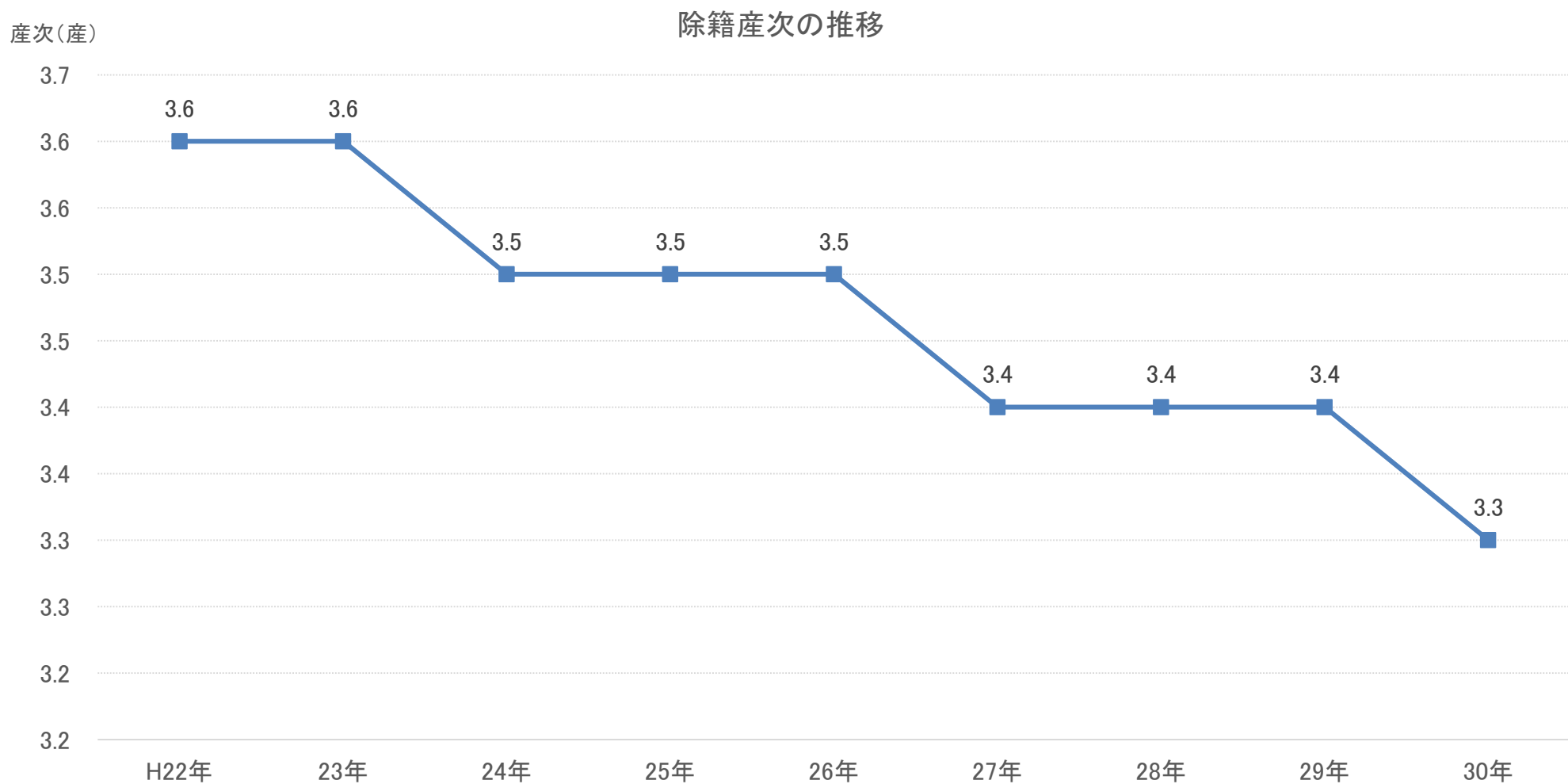


資料:分娩間隔の平均値は北酪検調べ。分娩間隔の最頻値は家畜改良事業団調べ。

1 乳牛改良の現状

(5) 除籍産次の推移

○ 乳牛の平均除籍産次は短縮傾向で推移しており、平成30年は3.3産まで短縮。



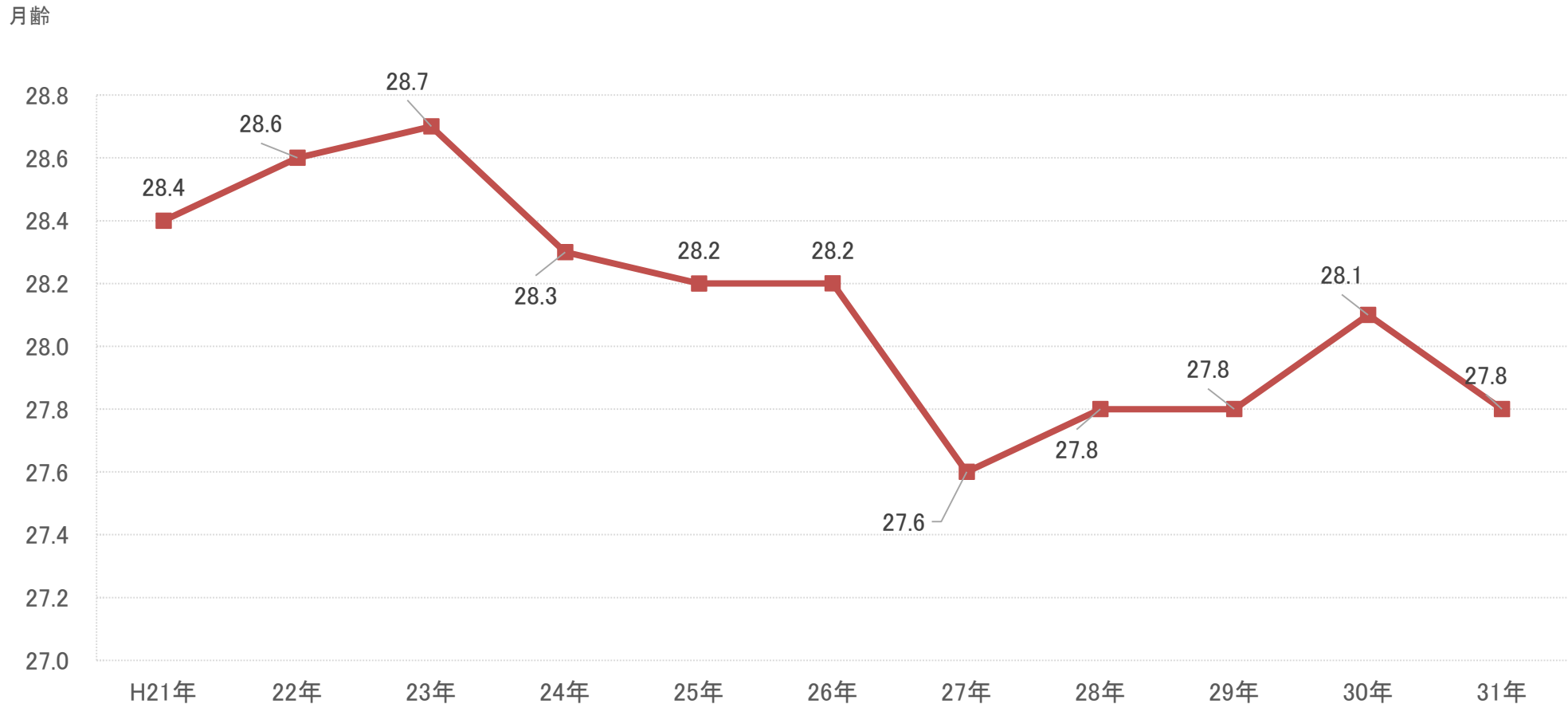
資料:平均除籍産次は北酪検調べ。

2 肉用牛改良の現状

(1) 黒毛和種に係る出荷月齢の推移

○ 黒毛和種の出荷月齢は、平成26年まで28か月齢を上回っていたが、27年以降は概ね27か月を維持。

黒毛和種に係る出荷月齢の推移

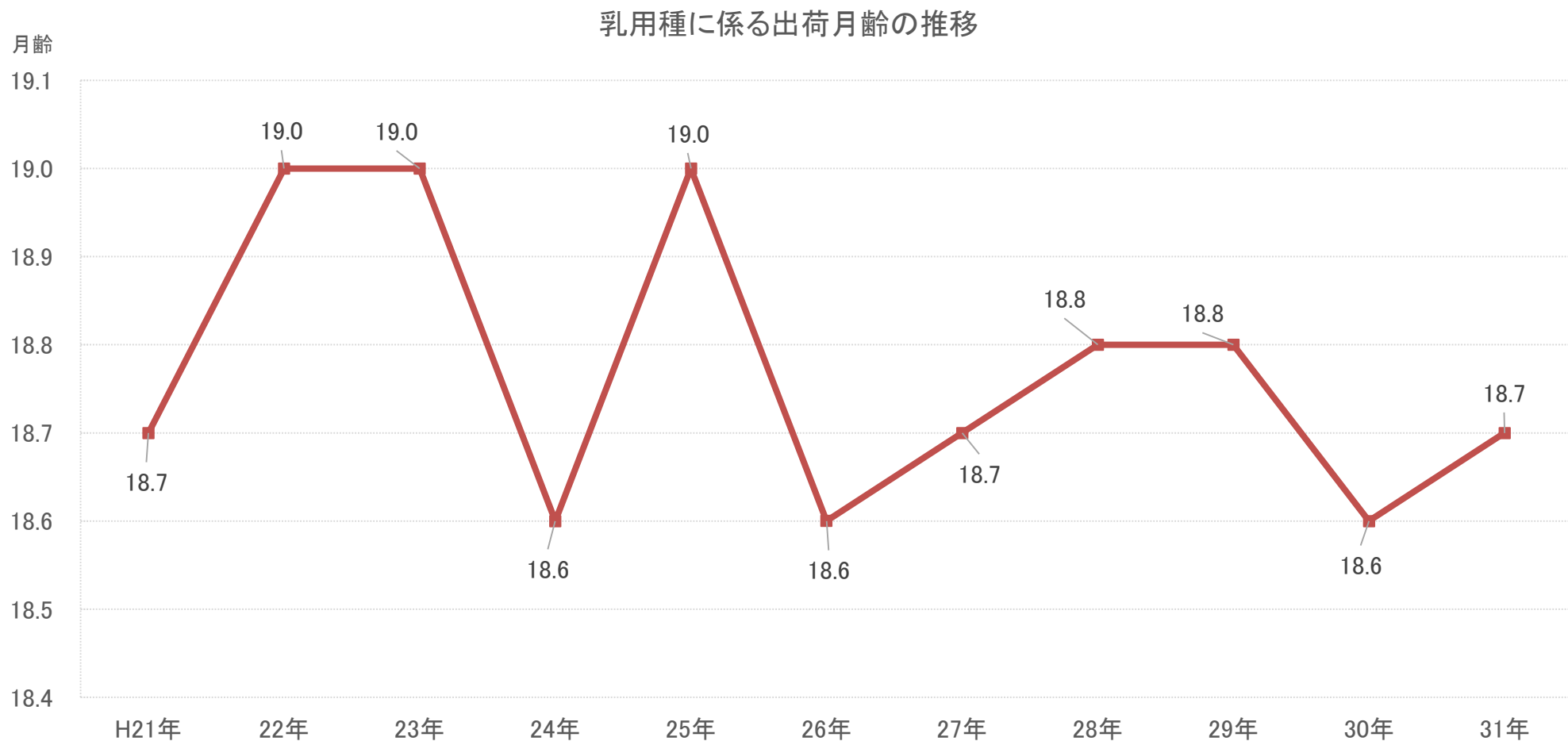


資料：平成25年以前、十勝枝肉市場調べ。
平成26年以降、全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(2) 乳用種に係る出荷月齢の推移

○ 乳用種の出荷月齢は、概ね18か月齢後半で推移。

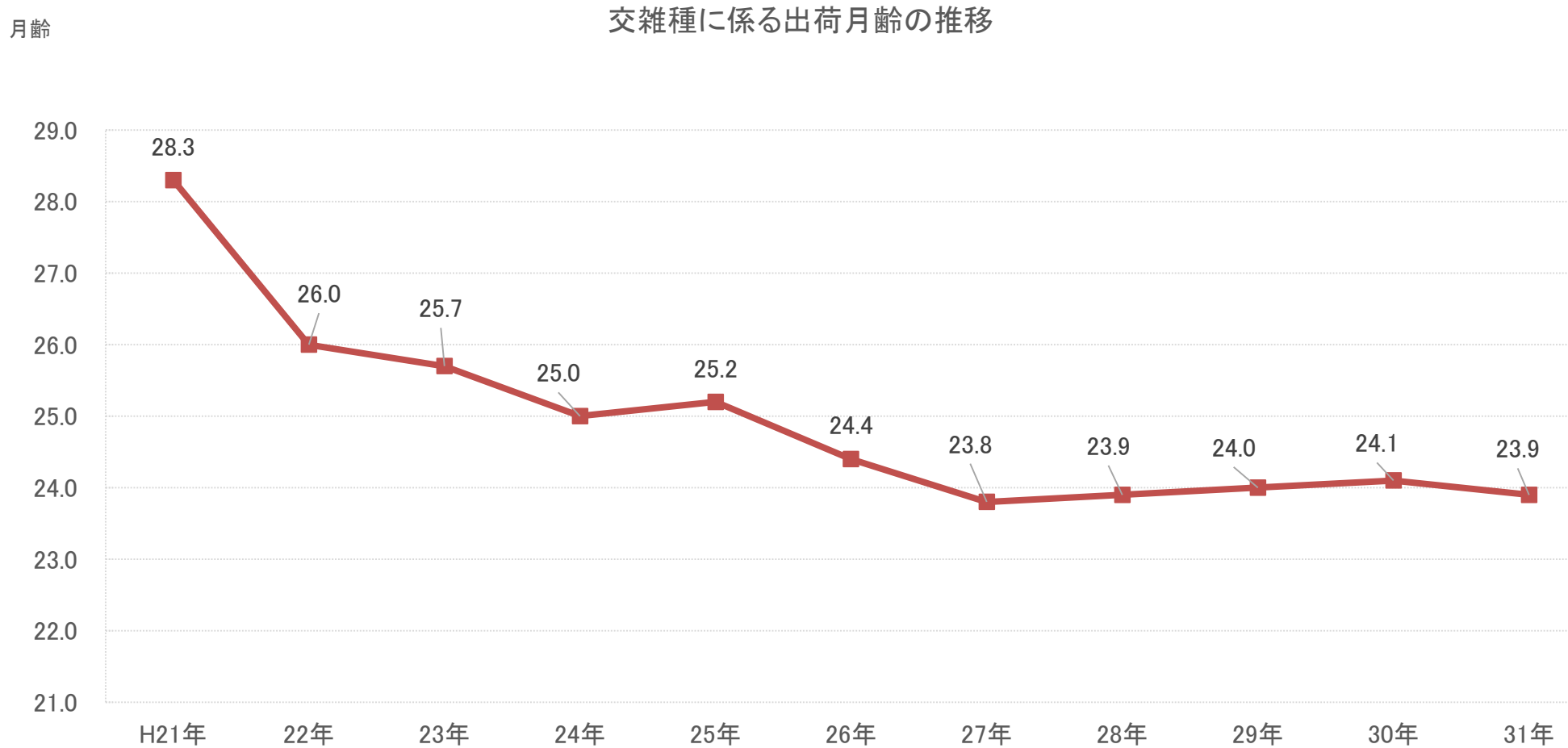


資料：平成25年以前、十勝枝肉市場調べ。
平成26年以降、全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(3) 交雑種に係る出荷月齢の推移

○ 交雑種の出荷月齢は、平成20年代前半に出荷月齢が大きく短縮され、26年以降は概ね24か月齢で推移。

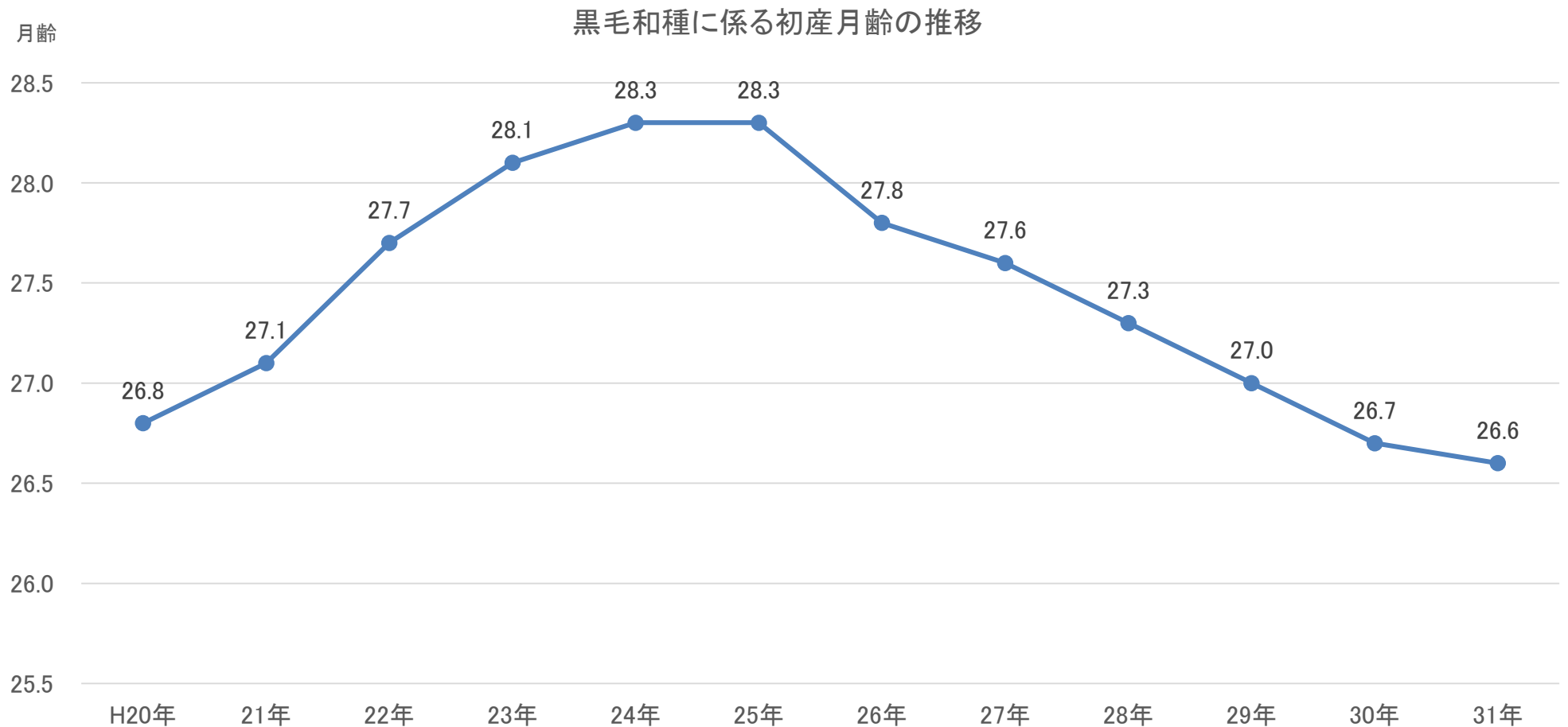


資料：平成25年以前、十勝枝肉市場調べ。
平成26年以降、全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(4) 黒毛和種に係る初産月齢の推移

○ 黒毛和種の初産月齢は、平成20年から25年にかけて、徐々に長期化傾向にあったが、31年には26.6か月齢と、概ね20年頃の水準まで回復。

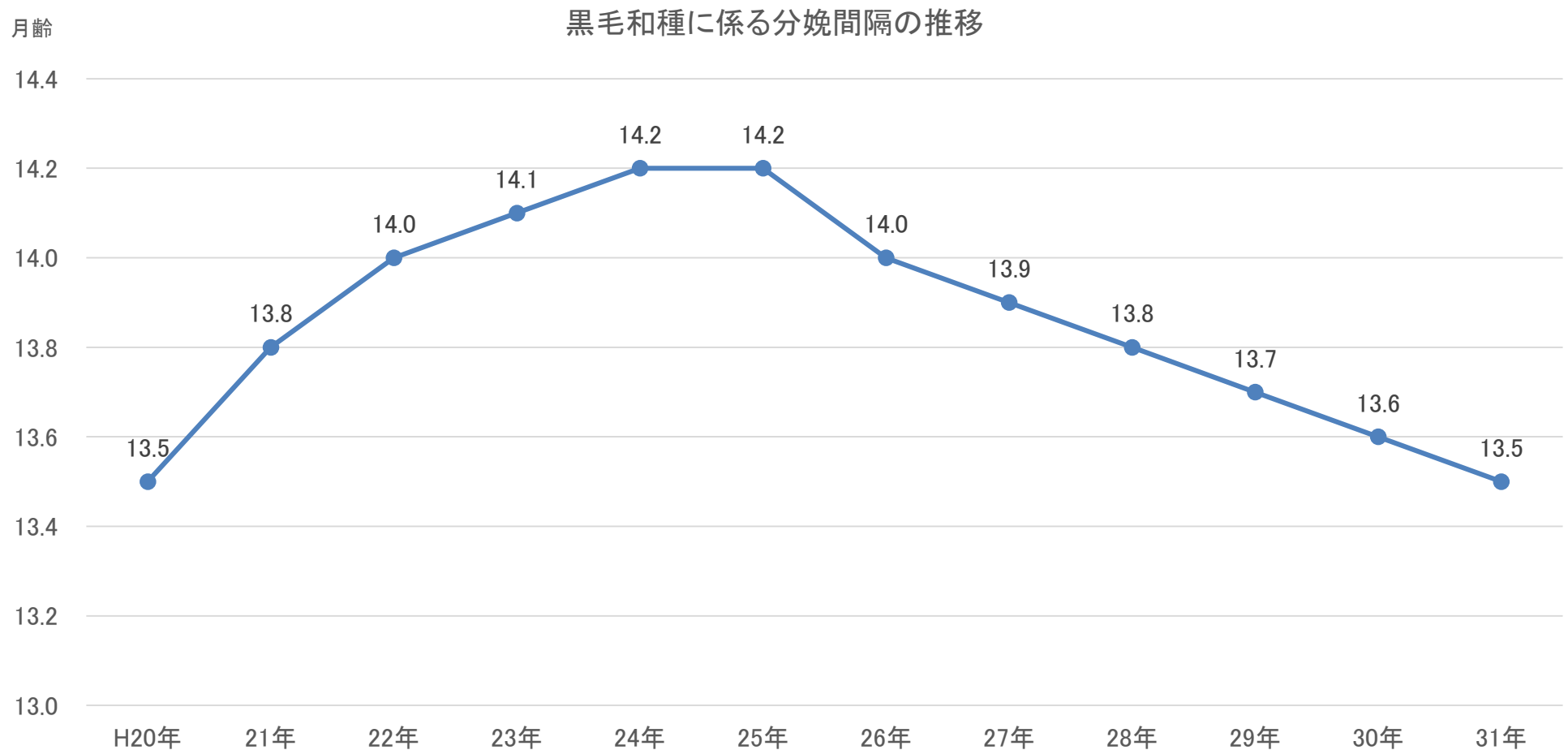


資料：平成26年以降、全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(5) 黒毛和種に係る分娩間隔の推移

○ 黒毛和種の分娩間隔は、平成20から25年にかけて長期化していたが、26年以降は徐々に短縮され、31年には13.5か月齢まで短縮。



資料：平成26年以降、全国和牛登録協会調べ。